

## 静岡県の地質概要

### 3. 地質構造

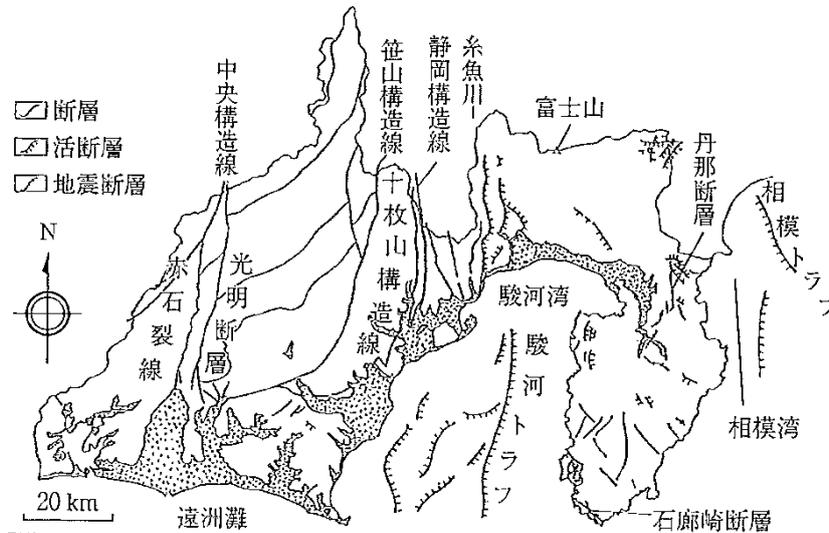


図 3-1 静岡県の断層と活断層、地震断層

出典：新版 静岡県 地学のガイド(2010), P12, 編集者 土隆一, 発行者 (株)コロナ社

静岡県はフィリピン海プレート、北米プレート、ユーラシアプレートの会合点となっており、さらに太平洋プレートからも大きな力を受けているため、断層によって複雑に分断されている。

主な構造線としては、西南日本の外帯と内帯を分かつ中央構造線、フォッサマグナの西縁を規定する糸魚川-静岡構造線等が挙げられる。また、海溝付加体の地質体を規定する断層としては赤石裂線、光明断層、笠山構造線、十枚山構造線等が挙げられる。

さらに、駿河トラフから富士山東側にかけては多くの活断層の存在が報告されており、伊豆半島には地震断層として著名な丹那断層や石廊崎断層等がある。また、これら以外にも小断層は無数に存在し、海溝付加体のみならず正常堆積物でも地層の連続性は不良である。

大局的な地質構造として、糸魚川-静岡構造線の西側では南北～北東-南西の走向が優勢で、西側に傾斜する部分が多い。これは、フィリピン海プレートの沈み込みによる広域応力場の影響を大きく反映したものである。